

栃木	都道府県	国立	公立	私立	(フリガナ)
学校名 J 小学校					担当者氏名 K 先生

- ◆ 1年 おおきなかず 2010年1月実践
- ・ 教示用そろばんを用いて  
数唱 (1から100まで), 逆唱 (100から1まで)
  - ・ 10とびで 10から100まで  
～まず教示用そろばんを用いて一斉に。  
次いで児童用そろばんを用いて個々に。
  - ・ 数を置く。23, 56, 84など 児童用そろばんを用いて置かせる。
  - ・ 5とびで数唱 5から100まで (教示用そろばんを用いて一斉に。)
  - ・ 2とびで数唱 2から30まで (教示用そろばんを用いて一斉に。)
  - ・  $30 + 20$ の類の計算
  - ・  $60 - 20$ の類の計算
  - ・  $24 + 3$ の類の計算
  - ・  $36 - 4$ の類の計算

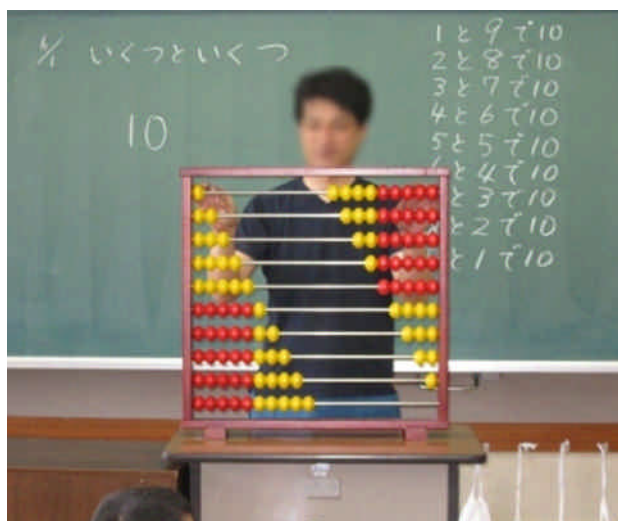


#### 【百玉そろばんを使ってみて】

数唱をするのに便利であった。リズムカルに玉が当たり、音が鳴るのが良い。そろばんの玉で数を視覚的にとらえながら数唱をすることは、次の数を思い出すのに無意識の助けとなっているようだ。今年度から新しく学習内容に加わった、 $30 + 20$ の類、 $60 - 20$ の類、 $24 + 3$ の類、 $36 - 4$ の類の計算を学習するのにちょうどこの教具が便利であった。 $24 + 3$ をするために、まず24を百玉そろばんではっきりと表すことがよい学習訓練になった。

◆ 1年 いくつといくつ 2010年5月実践

- ・ 教示用そろばんを用いて  
数唱（1から100まで），逆唱（100から1まで）
- ・ 10の分解 教示用そろばんを用いて一斉に、次いで児童用そろばんを用いて  
めいめいが取り組んだ。  
10は 1と 9， 10は 2と 8， ……
- ・ 10の合成 教示用そろばんを用いて一斉に、次いで児童用そろばんを用いて  
めいめいが取り組んだ。  
1と9で10， 2と8で10， ……



【百玉そろばんを使ってみて】

年度が変わって前回の実践とは別の児童たちである。数の合成・分解には百玉そろばんは効果的であるだろうと予想できたので使ってみた。その結果従来のブロックを使うよりも、すばやく操作ができ、また10種類の分解を一度に系列的に見ることができる利点がある。

「10は8と？」と聞き、児童が自分のそろばんを動かして、答えを見つける活動をしたが、操作の理解や反応はとてもよかった。またそろばんの玉を動かすことが楽しい様子であった。

◆ 特別支援教育への実践 2010年6月実践

対象： 第2学年に在籍している児童A  
児童の学力：  $3 + 4$ は指を使ってできるが、 $6 + 8$ はできない。  
1から20までの数唱や、 $6 + 8$ の類のくりあがりのあるたし算の計算に用いた。

【百玉そろばんを使ってみて】

指ではどの指を出したらよいか迷ったり、出ている指の数を数えるのをまちがえる児童であるが、そろばんを使うとほとんどまちがえずに計算することができる。指よりもシンプルに、また大きな玉を動かして数えることが良いのではないかと思う。

他の児童にも効果的であり、通常の学級と比べて頻繁に使っている。

